

受け継がれる迎春準備



1

12月8日に金沢地区、15日には柳沢地区で、年末恒例のしめ縄作りが行われました。しめ縄は、神を祀る神聖な場所であることを示すもの、その神聖な場所と我々の住む場所を隔てる結界のような役割をもつものとされています。そのため、神社では外から不浄なものや災いが入らないようにしめ縄を張り、結界を張るのです。

金沢地区のしめ縄作り

金沢地区では、しめ縄の奉納は50年以上続く伝統行事。数え年25歳を迎える男性がしめ縄を作るのが通例でしたが、進学や就職のため若者が流出しているという背景もあり、今年は女性にも参加を呼びかけ、男性3名・女性3名の計6名の若者がしめ縄作りに挑戦しました。

指導は森谷泰治さん（金沢）。参加者6名とも、しめ縄作りは初めての体験とのことで、終始森谷さんに手ほどき

きを受けながらの作業となりましたが、約4時間の作業で2本の立派なしめ縄を完成させました。しめ縄は、その日のうちに白山神社へ奉納。拜殿と鳥居にそれぞれ慎重に取り付けられ、初詣客を迎える準備が整った境内では、一足早く迎春ムードが漂っていました。

柳沢地区のしめ縄作り

柳沢地区では、数え年42歳を迎える男性が厄払いをするためにしめ縄を作り、地元の御嶽神社、石子神社に奉納する伝統があります。

今年は、42歳を迎える男性4名と神社の氏子7名の総勢11名で、わらを継ぎ足しては編んでの手作業を繰り返して、全長約7メートルのずっしりとしたしめ縄を3本完成させました。

指導にあたった氏子の皆さんは、「由緒ある神社でも、最近が高齢化・若年層の流出などで伝承が難しくなってお

り、しめ縄を維持するのに苦労していると聞きます。柳沢地区も例外ではありませんが、伝統には先人との心の交流があると思っています。労力がかかるが、先人から受け継いだ技や伝統を守る努力をした」と話していました。

しめ縄作り体験（子ども園）

12月24日、子ども園でしめ縄作り体験が行われました。



2



4



3



5

①柳沢地区のしめ縄作り。②金沢地区のしめ縄作り。当日は、経験者である保護者も加わり、協力して作業を進めました。③しめ縄取り付け作業の様子（白山神社）。古いしめ縄は、「おさいとう」の際に各家庭から持ち寄られた古い神社札やお守りと一緒に焚き上げられます。④・⑤子ども園でのしめ縄作り体験の様子。

稲わら文化の継承を図ろうと子育て支援事業の一環として企画されたもので、月山神社しめ縄保存会の皆さんと町郷土研究会の皆さんが講師を務めました。町内の小学生ら約40名が参加し、講師の指導のもと、しめ縄の材料となる縄を縛る作業から始めました。児童たちは、慣れないわらの扱いに悪戦苦闘しながらも、個性の光るオリジナルのしめ縄作りを完成させました。

参加した豊田小学校1年生の穂積陽愛ちゃん（土橋）は、「すごく難しかったけど、出来ばえは満足。家に飾ります」と感想を語り、町郷土研究会会長の横尾さんは「わらは、かつては草履や草鞋、縄、筥など様々な生活必需品を生み出す重要な資源でした。不要になったわら製品は土に戻して肥料にし、田んぼから生まれたものを無駄なく利用して、昔の人は実に上手にリサイクルしていました。日本ならではの文化から、多くのことを学んでほしい」と思いを語っていました。